

※第三者評価委員会資料

2023. 3. 11

令和4年度授業者の自己評価結果について

- 1 実施日：2月中旬
- 2 延べ科目数：57科目（53人）
- 3 表の見方：各項目の上段は%（四捨五入）、下段は延べ人数

| | 項 目 | 自 己 評 価 | | | |
|-------------------|---|------------|-------------------|----------------------------------|------------------|
| | | 1 そう思う | 2 だいたい そう思う | 3 どちらか というと そうは思 わない | 4 そうは思 わない |
| 学習集団 づくり | ① 互いに認め合いながら学習できる学習集団づくりができていた。 | 21% 11人 | 72% 38人 | 8% 4人 | |
| 目標の設定 | ② 授業の系統性を考え、シラバスに位置づけ、ねらいや目標を生徒に示した上で臨んだ。 | 28% 15人 | 66% 35人 | 6% 3人 | |
| | ③ 生徒の実態を十分に考慮して、授業を構成するなど、計画をたてて行った。 | 17% 9人 | 74% 39人 | 9% 5人 | |
| | ④ 授業のねらいや目標が達成できた。 | 8% 4人 | 75% 40人 | 15% 8人 | 2% 1人 |
| 教材・教 具の工夫 等 | ⑤ 準備した教材・教具や授業の展開のしかたは適切であった。 | 19% 10人 | 62% 33人 | 19% 10人 | |
| 発問・指 示の適切 さ | ⑥ 生徒の理解を助けるように、発問や指示を適切に行った。 | 25% 13人 | 66% 35人 | 9% 5人 | |
| 活動の場 の構成 | ⑦ 生徒は、意欲的に学習に取り組んでいた。 | 47% 25人 | 47% 25人 | 4% 2人 | 2% 1人 |
| | ⑧ 授業に集中しやすい環境や雰囲気形成できた。 | 25% 13人 | 70% 37人 | 6% 3人 | |
| | ⑨ 一方的な説明だけでなく、生徒が主体的に活動する場面を設けた。 | 38% 20人 | 45% 24人 | 15% 8人 | 2% 1人 |
| | ⑩ 生徒の発表などに対して、意欲を引き出すように働きかけた。 | 11% 6人 | 58% 31人 | 30% 16人 | |
| 個の学習 の成立 | ⑪ 生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め、必要な支援を行った。 | 17% 9人 | 60% 32人 | 23% 12人 | |

4 分析

- (1) 高い自己評価（1、2が90%以上）項目：①、②、③、⑥、⑦、⑧ +2項目
- (2) 低い自己評価（3、4が10%以上）項目：④、⑤、⑨、⑩、⑪ -2項目
- (3) 改善が必要な評価（3、4が15%以上）項目：④、⑤、⑨、⑩、⑪ +3項目

※高い事項評価項目は前年比プラス2項目、低い自己評価項目は前年比マイナス2項目。ただし、改善が必要な評価項目は前年比プラス3項目。特に、⑨と⑩の項目は授業改善が必要である。これまでの授業スタイルを全面的に見直し、ICT活用授業など、授業者の意識改革が必須である。